

付属施設の今後の計画は

機能拡充を計画している



議員 孝年 小松

問 5月に、消防署新庁舎の落成式を終えて、現在は新庁舎で運用しているが、ヘリポートや訓練棟設置の予定はどうなるか。また、その構造、予算、その他今後の計画について問う。

答 松本 情報防災課長

黒潮消防署庁舎南側の避難広場は未舗装のままとなっており、今後、防災活動拠点施設としてさまざまな機能拡充を計画している。

ヘリポートについては、庁

舎南側へ着陸可能な広さのコンクリート施工を行い、ヘリサインとソーラーの誘導灯を設置する予定で、6月議会の補正予算で600万円を計上している。周りの広場については、都市防災事業（線越）で整備し、アスファルト舗装となる。

また、訓練棟については、5カ年の要望調査が高知県から来ている。

要望調査に挙げている訓練棟の構造は、広域で利用するような訓練棟を描いており、構造については鉄筋コンクリート。そして、訓練を有効かつ安全に実施可能な施設が、訓練棟の要望の内容。今後、施設の設定内容や有効な補助金等の検討、精査を行った上で、来年度以降に建設を目指す。

その他の計画としては、今

年度に庁舎南側に防火水槽を施工した後、避難広場の舗装を行う予定。

また、災害用の資器材や備蓄物資を保管するために防災倉庫を庁舎南側に整備する。

その他、幡多中央消防組合が事業主体となつて、太陽光発電設備を庁舎屋根部分に整備する予定である。



消防署裏側のヘリポート予定地、奥側には海が見える

観光振興

思い切った戦略を

モデルの構築を進める

問 黒潮町は、観光資源は多くありながら、うまく生かせてないのが実状だが、それでも近年、経済効果もかなり上がってきている。高規格道路の延伸に伴い、今から思い切った戦略を立てていかなければ間に合わなくなる。

観光農業や観光漁業などは、一次産業にとつても大きな発展につながり、雇用の拡大や若者定住にも大きく作用すると思われる。

観光振興は、誇りの持てる町につながり、町のイメージアップ、産業の活性化につながって雇用の拡大が生まれ、それが人口の流出を抑え、流入を促す。これによって、福祉の充実、少子高齢化の解決につながっていくというのが、私のシナリオだが、町長の考えを聞く。

答 大西町長

現在、観光ネットワーク、観光を考える会の協議が本格化してきた。このことに非常に期待をするし、これからしっかりと協働していかなければならないと思っている。今後、まずは現状把握からスタートし、しっかりと観光モデルの構築を進めていく。



観光の目玉のひとつ「ホエールウォッチング」